



2025年9月1日
聖心女子学院初等科
校長 藤原 恵美
9月号

You are special.

校長 藤原 恵美



今年は、41.8℃と日本歴代最高気温を記録するなど暑い夏となりましたが、皆様いかがお過ごしでしたでしょうか。子どもたち、保護者の方からたくさんの夏のお便りを頂きました。ありがとうございました。

さて、私はしばらくアメリカで生活をしていたことがあります。中西部のセントルイスという町にある大学で日本語講師として仕事をしていました。同僚に日本語がとても流暢で、日本文化にも造詣の深いアメリカ人の先生がいました。二人の息子さんがいて、ベビーシッターもよく頼まれました。その大学には12年間いたので、弟のステーブが3歳ぐらいから、お兄ちゃんのダニー君が大学入学まで、二人の成長を見守らせてもらいました。彼女とはオフィスが一緒だったので、親子の会話を聞く機会が多くありました。話がおわって、オフィスを出ていくとき、必ず“I love you, Mammy.” “I love you, Stevie. I love you, Danny.” 高校生になっても“I love you, Mammy.” です。テレビのドラマを見ても I love you. はたくさん言われていました。挨拶の一部になっているのかもしれませんが、そうであっても毎日、何回も「私はあなたを愛しています」「あなたを大事に思っています」と言葉に出して言うのはよいことだなあと考えたものです。

もうひとつよく聞かれたのが“You are special. I love you.” は日本ではアメリカ人のように頻繁に言いませんが、子どもが可愛い、大切だという気持ちは同じですから、理解できるというか、普通に聞いていました。しかし、“You are special. You are special to me.” はなるほどこういう言い方があるのかと、新しい発見をした気持ちになりました。あなたは特別なのだ。あなたは私にとって特別に大事な存在なのだ。You are special. いい言葉だなあと思います。例えば「大丈夫かな。ちゃんとやっているかなあ」とちょっと弱気になっているときに“You are special to me. I love you.”と言われたら、がんばってやってみようという元気が出て、自信をとりもどせるような気がします。また、You are special. には人と比較することはない、スペシャルなのは「あなたがあなたであるから」という意味も含まれているように思うのです。You are special. と I love you. は相手に自信をもたせ、安心をあげる素敵な言葉で、それを思っているだけでなく、会話の中で、口に出して言うのがアメリカの文化なのだと気づきました。

“You are special. I love you.” の you は保護者の皆様にとって、どなたになるでしょうか。繰り返しになりますが、You are special. には人と比較することはない、スペシャルなのは「あなたがあなたであるから」という意味です。お兄ちゃんにはお兄ちゃんの個性、妹には妹の個性。お隣はお隣、うちはうちです。先ほどのダニー君とステーブ君のママは二人には別々の楽器を習わせていました。それぞれの個性を伸ばそうという親の配慮だったのだと思います。人と比較しての自分、人にどう評価されるかに汲々とする自分ではなく、「世界に一人だけ」のスペシャルな存在としてあることに自信を持ってもらいたいと心から願います。どうぞ保護者の皆様にとって「特別な You」の話にじっくり耳を傾けて、“You are special. I love you.” の気持ちを伝えてさしあげてください。

9月の行事予定

1日(月) 9月の会
6日(土) 第2回初1学校説明会
10日(水) ～12日(金)
6年校外学習
11日(木) 5年まとめのテスト①
15日(月) 敬老の日

17日(水) 泉の会代表幹事会
23日(火) 秋分の日
24日(水) 後期児童会立ち会い演説会
25日(木) 午前授業
26日(金) 1～3年遠足
30日(火) 午前授業

※10月1日(水) 都民の日(休日)

～夏のお便りから～



成績について

教務主任 大谷 史子

学期末は、今までの学習や生活を振り返る節目の時期です。聖心では、児童自身がする「自己評価」と教科担当教諭が行う「評価(成績)」の2つを並べて振り返ることをお願いしています。「自己評価」を『自己評価票』や『わたしのつうしんぼ』に、「評価(成績)」を『学習・生活の記録』に示しています。この『学習・生活の記録』ですが、「成績表」という名前にしなかったのには理由があります。子どもたちの学習は、生活と密接に関わっている、日常生活がとても大切であるという学校の考えをお示し、ご理解いただきたいという願いがあるからです。

『学習・生活の記録』に記載している「評価(成績)」は、学習への取り組みを客観的に判断したものの全般をさす言葉ですが、その中身は厳密にいうと、“評価”と“評定”から成り立っています。“評価”は、日々の学習の様子を学期末に総括したもので観点別に表しています。これは、他の児童と比較したり、集団内での順位をもとに評価する「相対評価」と異なります。学習の内容を理解した、習得するために必要な方法を身につけた、習得するために繰り返し練習したなどの姿を評価する「絶対評価」です。できるようになったという「到達度評価」だけというわけでもありません。一方“評定”は、学期末に総括した“評価”をわかりやすく数値化したものです。(1・2年生は、学習内容や年齢を考慮して“評定”を出していません。)

評価は、私の現在地を示すものです。今は、山の頂上にいるのか、8合目か、頂上まではまだ遠いのかを示しています。ですから、明日からもこつこつ登り続け、頂上まで極める人もいれば、ずっと8合目にとどまっている人もいます。子どものときは6合目だったけれど、大人になってやっと7合目まで来たとこともあるかと思います。評価を見ながら、昨日の私の現在地から、明日の私に出会うヒントを見つける『振り返り』をしてほしいと思います。特にお子様の書かれた「自己評価」には、「楽しかった、おもしろかった」「わからなかった」などの言葉の裏には、「自分なりに頑張った」「苦手だから克服したい」などの思いが隠れています。「～が」と書かれた主語の中には、興味関心を広げる糸口があるのかもしれませんが。この先、「楽しい」や「好き」が達人への一歩になったり、「苦手」が困難への向き合い方につながったりすることもあるでしょう。『振り返り』では、自分を知り、次の目標に向けて考え、新たに頑張ろうと思えることが大切かと思います。是非、子どもたちの声に耳を傾け、隠れたヒントを探していただきたいと思います。

先日、「振り返り」と検索したら、AIが次のように答えてくれました。「自身やチームが行った行動、経験、結果などを客観的に評価し、そこから学びを得て次に活かすためのプロセス。単に過去を後悔するのではなく、良かった点と改善点を見つけ出し、今後の成長や目標達成、業務改善、効率化につなげることが目的。」だそうです。また振り返りのポイントとして「客観的に行う」「反省で終わりにしない」「具体的なフレームワークを活用する」「感謝と敬意を忘れない」とありました。学期末の成績を用いて有意義な振り返りができるよう、学校では面談日を設けています。「客観的に」という側面から情報を共有させていただくとともに、「具体的なフレームワーク」として学校からお示しすることもあると思います。子どもたちが、振り返りを通して「新しい私」へのモチベーションにつながるように、保護者の皆様とご一緒に支援できることを願っています。